



TYMCからのお願い・お知らせ

医療機関の先生へ

- ・地域連携専用：TEL 047-458-6543 / FAX 047-458-6545
- ・受付時間：月～金 9:00～16:00 / 土 9:00～11:30
*日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4(年末年始)はお休み
- ・診察は完全予約制ですので、必ず「紹介状」をご用意いただき事前に「予約」をお取りください。
- ・予約外の患者さんは予約患者さんの合間に診察となりますので、お待ちいただく場合がございます。
- ・紹介状をお持ちでない患者さんは、「初診時保険外併用療養費 ¥3,150」が自費でかかります。

電話予約センターについて

- ・専用電話番号：047-458-6600 (患者さん専用)
- ・受付時間：月～金 9:00～16:00 / 土 9:00～12:00 (日曜、祝日、毎月第3土曜日は休日です)
*日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4(年末年始)はお休み
- ・予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

検査連携について

- ・検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接患者さんからの受付は出来ません。
- ・連携検査：CT・MRI(単純)・RI・X-P(胸部)・マンモ・骨密度・セファロ の画像検査のみ

やちよ夜間小児急病センターについて

- ・専用電話番号：047-458-6090 (医療相談は行っていません)
- ・受付時間：365日 18:00～23:00
- ・事前の予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。



編集後記

平成18年12月に開院し、ようやく医療支援ニュース「greens」第1号の発行となりました。開院以来お世話になっています、地域の医療機関の皆様にはご不便をおかけしております。まだまだ至らない点ばかりですが、今後もよろしく願いいたします。少しずつではありますが、このニュースを通じ地域医療機関の皆様と当院の情報を共有できればと考えております。

さて、さる7月22日(日)に行われました「やちよ健康フェスタ 2007」のご報告です。来院者数は3,000人を超え、講演・体験・縁日など屋内外問わずどのブースも大盛況となり、地域の皆様との第一歩としてはまずまずだったかと思われます。準備から片付けまでご協力いただいた、地域ボランティアの皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

来年からも当フェスタが「八千代の風物詩」となれるよう、職員一同がんばりたいと思います。

医療支援室 地域連携



平成19年10月
年2回 発行

東京女子医科大学 八千代医療センター 医療支援ニュース

greens
ぐりーんず

第1号

東京女子医科大学
八千代医療センター
医療支援室発行

地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

八千代医療センターと地域医療



院長 伊藤達雄

東京女子医科大学附属八千代医療センター(以下通称八千代医療センターTYMC)は平成18年12月5日の開院式に続いて、12月8日(金)に開院を致しました。八千代医療センターは、この地域における懸案でありました小児医療と救急医療の充実、さらに千葉県からの要請による産科と新生児医療を担うべく計画されました。

その結果、地元の小児科医と協力した夜間小児急病センターと、約10名の小児科医による高規格な小児医療、24時・365日対応の救急医療、そして人口急増の京葉地区での総合周産期母子医療を中心に、各種の最新鋭診断・治療機器をそろえた急性期の高規格病院となっております。

すなわち「地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と、急性期・高機能・先進医療との調和」を理念として東京女子医大の持つすぐれた医療知識、技術、を活用し、さらに周辺の医療機関との間に十分な連携を持った急性期病院となっております。

発足し9ヶ月が過ぎた現在、平日の外来はおよそ550名、また時間外における救急医療は平均して60名、休日120名位で、うち小児救急は平日30名、休日は70名位と多くの救急医療を行っております。

八千代市の救急車も約80%が当院で担当し、市外へ出ることが少なくなりました。しかし、正月・連休の休日にはあまりにも多くの方が来院され、お待たせすることも少なくありません。

一方、入院の方は約210名程度となり、手術治療なども的確に行っております。

重症な出産、未熟児にも対応しており、開院当日より双胎の分娩を行うなど、周産期医療も充実しつつあります。

現在、入院待機の方は80名近くおり、なるべく早く入院をと考えております。

入院治療後は周辺の医療機関と緊密な連携をおこない、当センター退院後の良好な医療継続をできるよう配慮しております。すなわち急性期の医療は人材、設備の充実した八千代医療センターで行い、おちついたら近くの医療機関で継続するというものです。そのため八千代市医師会の皆様を中心に、100を超える地元医療施設と提携しております。

私達八千代医療センターの医療スタッフ、事務などの従業員一同、八千代市民の健康維持・増進を目指し、皆様に愛される病院とすべく頑張っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



病院外観(中庭から入院棟)



TYMCマスコットキャラクター「ぐりーんず」

□ ご意見・ご感想を電子メール(renkei-j@tymc.twmu.ac.jp) または外来棟総合案内・入院棟総合案内の『ご意見箱』にどしどしお寄せください。お待ちしております！



TYMC紹介 ① 『総合周産期母子医療センター』

総合周産期
母子医療
センター
Maternal and Perinatal Center

「周産期センターとは」

妊娠の中頃から出産の前後までの時期を周産期といい、この時期の母体、胎児、新生児に行う医療を周産期医療といいます。また、妊娠中の病気や分娩を扱う産科と、生まれたばかりの赤ちゃんの治療をする新生児科とが一体になった施設を周産期センターといいます。

さらに母体に合併症があったり、途中から発症すれば、内科外科など各科が必要であり、重症な母体や手術を扱うには麻酔科が必要です。胎児・新生児が病気を持っていれば、生後に小児科や小児外科も必要です。

このように幅広く重症な母体・胎児・新生児の治療に対応できるように、定められた設備、人員を備えている周産期センターが総合周産期母子医療センターです。このほかに地域周産期母子医療センターという総合周産期センターに準ずる、やや規模の小さい周産期センターがあります。

「救急母体搬送・新生児搬送」

八千代医療センターには周産期センターがあり、千葉県から総合周産期母子医療センターの指定を受けています。ここでは、母体・胎児集中治療室と新生児集中治療室があり、市内や近郊をはじめ、県内全域の周産期医療機関と連携します。

具体的には、破水や切迫早産、双子などで未熟児が産まれそうな妊婦さん、妊娠高血圧(妊娠中毒症)で胎児発育の不良な妊婦さん、胎児に病気が疑われる妊婦さんなどが救急車で母体搬送され、すぐに入院治療が必要な母体・胎児を、母体胎児集中治療室(母性胎児科)が担当します。

赤ちゃんが生まれてから新生児搬送する方法もありますが、未熟児や病児を搬送するというリスクとなり、母児がしばらく別々の病院で過ごすこととなります。新生児集中治療室(新生児科)では、早産などで未熟で小さな赤ちゃんが産まれますと、呼吸や循環を補助したり、合併症を治療、予防したり、赤ちゃんが元気に発育できるように検査や治療を行います。

その他に他病院で生まれた後、具合が悪くなった赤ちゃんも新生児集中治療室に新生児搬送されてきます。

「産科セミオープンシステム」

八千代医療センターではハイリスク妊娠・分娩の診療が中心ですが、異常のない妊婦さんの健診やお産も行います。ここにはいわゆる陣痛室はありません。陣痛での入院から分娩まで、手術室的な感じのしない、居心地の良い個室LDR(陣痛・分娩・回復室)でのお産です。夫と共に赤ちゃんを迎えるお産も行われています。分娩時鎮痛(無痛分娩)も一定の条件の下に行います。

当院でのお産を予定している妊婦さんで、妊娠経過に異常がない場合には、妊婦健診をお近くの産婦人科クリニックで受けることもできます。当院に分娩の登録のために一回受診しておけば、10ヶ月に入る頃までクリニックで、その後は当院での健診に移り、お産を当院で行います。これは産科セミオープンシステムといわれ、外来の労力を減らせてハイリスク妊娠・分娩の診療を充実できます。

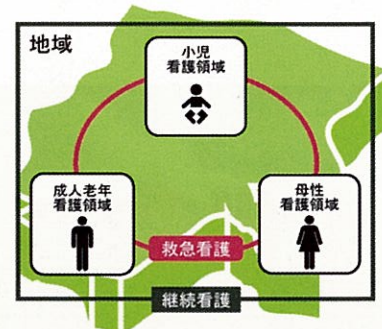
そのようなご紹介を頂いたり、当院から妊婦健診をご紹介したりしているセミオープンシステム登録医療機関(診療所)が10施設以上ありますのでご希望のクリニックに通えます。

「千葉県の周産期医療センター」

総合周産期母子医療センターは人口100万人につき1施設が目安とされていますが、実際にはそれを満たす県は多くありません。

千葉県の人口約600万人に対し、2007年4月現在、総合周産期センターは2つ、地域周産期センターが3つあります。周産期センターではないけれど未熟児・新生児を数名なら診ることができる病院も協力して分担し、千葉県で生まれる未熟児新生児の医療にあたっています。

需要に対して施設数は十分ではなく、そこに働く産科医や新生児科医も、忙しく厳しい労働条件となるために不足しているのが現状です。



「ハイリスク妊娠・ハイリスク分娩」

周産期センターには救急車で運ばれてくる妊婦さんばかりではなく、双胎・前置胎盤・子宮筋腫合併・内科合併症等の「ハイリスク妊娠」といわれる妊婦さんが、地域の産婦人科医院から紹介され、妊婦健診に通院しています。これらの妊婦さんは途中から入院して早産となることも多く、薬による治療や帝王切開・輸血が必要なことがあります。周産期センターはこれらの「ハイリスク分娩」に対応する施設です。

ハイリスク分娩を行う妊婦さんには、母児の安全性を確保するため、正常分娩と比べいろいろな制約が増えますが、私達はできるだけ快適な分娩の環境を提供できるよう心がけています。



TYMC紹介 ② 『やちよ夜間小児急病センター』

夜間の小児初期救急患者に対応しています。診療は365日行っており、午後6時から8時までは同センターの小児科医が、午後8時から11時までは地域の小児科医などが診療しています。

午後11時からは、同センターの『救急外来』で診療をします。(受診は、できるだけ11時までにお願います。)

なお、診察の前には「トリアージ」を行います。「トリアージ」とは「重症度判定」の意味で、診察の前に専任の看護師が患者さんの容態を診て、「緊急」や「通常診察」などを決めるものです。



トリアージ機



トリアージ待合室



小児科待合室



リレー・エッセイ 『呼吸器内科の診療』



呼吸器内科 桂先生

八千代医療センター呼吸器内科は、地域の中核病院として、肺癌、肺炎などの呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、睡眠時無呼吸症候群などさまざまな呼吸器疾患全般の診療を行っています。

特に、COPDをはじめとした慢性呼吸器疾患の診断と治療、在宅酸素療法や在宅人工呼吸療法などの在宅呼吸ケア、急性期の呼吸管理に力を入れています。COPDや気管支喘息などの慢性呼吸器疾患の管理では、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などの多職種からなる医療チームにより運動療法、日常生活指導、服薬指導、栄養などの包括的な指導を行い、患者さんの自己管理能力を高め、呼吸困難の軽減や生活の質の向上に努めています。

また、在宅医療に関しては、地域の病院、診療所、訪問看護ステーションなどとの密接な連携のもとに患者さんとご家族を地域全体でサポートするシステム作りを目指しています。

咳、痰などの呼吸器症状が持続したり、日常生活で呼吸困難を自覚される患者さんの精査、加療が必要な際にはご紹介いただければ幸いです。



八千代医療センターは「急性期」に特化した「地域連携型医療」Ren-Kを目指します。